

水の源

2014.12

27

M I Z U N O M I N A M O T O

巻頭インタビュー 水源の里へ思いを馳せる

笑いは一期一会 きみまる節で地域を元気に

漫談家 綾小路 きみまるさん



特集

第8回全国水源の里シンポジウム

水源の里再生が日本の未来を変える

和歌山県田辺市

ウォークルポ

縁側カフェで農村交流

900人の“源快集楽”で

100年後を見据えて

福島県西会津町

第6回全国水源の里フォトコンテスト

水源の里のうまいもん 吉野鶏めしおにぎり

大分県大分市

笑いは一期一会 きみまる節で地域を元気に

漫談家

綾小路 きみまるさん

—綾部公演、お疲れ様でした。すごい数のお客さまでしたね。

おかげさまで、1000席以上のチケットが即日完売だったそうで。ありがたいことです。しかしこれだけ殺到してくださるとは、綾部の人って笑うことが好きなんですかね～（笑）

—2009年に出演されたNHK番組「クローズアップ現代」での、思わずのけ反るようなフレーズの数々は話題になりましたね。「豊かな教養、あふれる美貌、こぼれる脂肪」（笑）

あの番組はよく覚えています。視聴率も16%とすごく良くて、多くの反響をいただきました。

—16%とは驚きですね。さすが中高年の星。大ブレイクされて10年以上経った今も、忙しく地方を飛び回っておられるそうですね。合間を縫ってのネタ作りも大変でしょう。

昨日は豊岡市（兵庫県）、今日は綾部市で公演、明日はTVの収録……。確かに年齢の割には、スケジュールが詰まっていますね（笑）。

ネタの在庫はたくさんあるのですが、行く先々でお客さまも会場の規模も違うので、同じようにはできません。1回1回が一度きりの真剣勝負。自分の公演を毎回録音して何度も聞き返し、お客さまがどこで笑っているかを分析しています。時には、舞台の上でネタをアレンジすることもあります。そういう努力は常にしていますね。ポーっと慢心してはおれません。お金をいただいて私の舞台を見に来て下さる皆さまに、「きみまるに元気をもらった」と思っただけの帰っていただけることを願ってやっています。

—その土地ならではのネタのアイデアというのは、どういうところから生まれるのでしょうか。

僕の旅の楽しみは「道の駅」を訪れること。道の駅には地域のあらゆるものが詰まっています。そこに並ぶ草花や野菜、名産品などを見ると、その町の様子が浮かんでくるんですよ。それを作っている人々の生活ぶりなどを想像すると、親しみが湧きます。そこで、地元の人々の空気を感じ取れるというのもいいですね。今日、豊岡から向かってくる途中に、錦鯉を売っているところがありました。「道の駅まほ



地方公演の楽しみを語る綾小路きみまるさん

ろば（兵庫県朝来市）」だったかな。山の中腹で飼っているという錦鯉を“ビニール袋”で売っているんですよ！これには驚いて笑ってしまいました。全国を回っていると、こんな思いがけない出会いがたくさんあります。一期一会の出会いが、その地方ならではの笑いのアイデアに繋がっていると思います。

—笑いは地域活性にも一役買いそうですね。

全国の中高年の方々が、きみまるを見て笑って、元気になってくれたら。私も体にムチ打って、各地を飛び回っている甲斐がありますね。

—明日はここでTV番組『人生ひまつぶし』の収録もあるとか。自分の町に突如きみまるさんが現れたら、皆さんビックリされるでしょうね。いい出会いに恵まれることを祈ります。

今後もわれわれ中高年層に元気を与えるご活躍を期待しています。



綾小路きみまるの人生ひまつぶし

きみまるさんがライブで訪れた地を気ままに巡り、偶然出会った人々と触れ合う。笑いと感動のドキュメント番組。

放送予定

- テレビ大阪 毎週金曜日 11:30～12:00
 - BSジャパン 毎週土曜日 17:30～18:00
 - テレビ北海道 毎週水曜日 12:30～13:00
 - J:COMテレビ 毎週木曜日 9:30～10:00
- <http://www.tv-osaka.co.jp/ip4/kimimaro/>

Profile



1950年鹿児島県生まれ。漫談家としてデビューし、苦節30年。2002年に発売した漫談CD『爆笑スーパーライブ第1弾！中高年に愛をこめて…』が累積180万枚を超える大ヒットを記録した。以来、赤い燕尾服に扇子を持ったスタイルで、中高年の哀愁を面白おかしく語るきみまる節は、中高年層を中心に絶大な支持を集める。年間100本以上の公演をこなす多忙な日々のなか、山梨の自宅では畑仕事をしてリフレッシュしている。今年9月にはみずから作詞をした、歌手デビューシングル『あれから40年』を発売した。



会場の龍神市民センターから見る龍神村



シンポジウムは多くの来場者で賑わった

特集 第8回全国水源の里シンポジウム

水源の里再生が日本の未来を変える

水源の里が抱える多様な課題と解決策を議論し、その果たす役割について考える「全国水源の里シンポジウム」。8回目を迎える今回のテーマは、『動き出した自然資本価値と持続可能な共生社会～いのちをつなぐ水源の里、龍神から世界に向けて～』。和歌山県田辺市を会場に、地元住民や全国の参画市町村などから約450人の参加者を得て、盛大に開催されました。2日間にわたる大会の様態をレポートします。

【取材・文 白波瀬聡美】



里山資本を見直す

シンポジウムの基調講演は、地域エコノミストで日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介さん。テーマは「里山資本主義・水源の里の可能性」。

「里山資本主義」。水源の里に関わる人なら耳にしたことがあるかも知れないが、一般には聞きなれない言葉であろう。この言葉は「マネー資本主義」の対義語として藻谷さんが提唱した言葉で、おおまかに言えば、「お金がなくても水と食料とエネルギーが手に入り、安心・安全に生活ができる仕組みを作っておこう」という考え方である。

藻谷さんの講演の特徴は、市町村関係の統計数字や地域特性を詳しく把握した上で、その地域が抱える問題点を解析し、現場の実例も交えながら、まちづくりのあり方を提言しているという点だ。今回の講演でも人口四千人余りの長野県下條村を例に挙げ、ここでは子ども・現役世代の数、65歳以上の高齢者の数がともに20年間横ばいであることを紹介。現在、子どもが激

減し、高齢者が驚異的に増え続けているなか、安定的に生産年齢人口を減らさないことがいかに難しく、このことこそが地域活性の目指すところなのだと強調した。人口減少に歯止めをかけるには、少子化対策すなわち、出生率の低下を止めること。そのためには、子育て世代が暮らしやすい環境整備が必要であり、親が笑顔で^{はつらつ}澁刺としている地域には自然と子どもが増えるのだという。

便利で暮らしやすいと思われる都会では、待機児童が溢れかえり、安心して子育てをしながら働ける環境にない。それが子どもを産まないという選択肢に繋がる。自然豊かな里山で、

のびのびと子育てをしながら暮らしていれば少子化対策への可能性があるのかも知れないが、果たして里山に生活していける雇用はあるのか？

そこで藻谷さんは「里山資本主義」の重要性を説く。戦後、高度成長期のエネルギー革命で安く大量に供給された石油は、あっという間に木炭や石炭といった従来の資源にとって替わり、エネルギー界の王座へと登り詰めた。しかし、近年の原油高騰で、山の産業が廃れた頃1バレル=360円だったものが現在は9,000円。なんと25倍にも跳ね上がっているのだ。今こそ、里山に眠る山林や耕作放棄地などの資源を活かすとき。これらの資源を有効活用し、食料やエネルギーの自給率を高めて、地域内でお金が循環する仕組みを作れば、雇用が生まれ、人口増加につながるという。それには田舎の空き家を開放して、若い世代をどんどん受け入れ、地域資源を発掘してもらうことが必要不可欠となる。

「この会場にも赤ちゃんの泣き声が響いて当然。その声を、みんなで『いい声だね、嬉しいね』と

開催地は田辺市

今回のシンポジウムが行われた田辺市は、広大な市域の中に世界遺産登録10周年を迎えた「紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）」があることで知られる。多くの温泉郷などとともに、5つの河川の水源を擁する一大水源地域。全国水源の里連絡協議会にも設立当初（2007年）から加盟し、先進的に水源の里の振興に取り組む市である。会場となった龍神村に古くから伝わる「紀州龍神太鼓」が勇壮に打ち鳴らされるなか、大会は始まった。



開会のあいさつをする真砂田辺市長



シンポジウム会場では田辺市の特産品が販売された



紀州龍神太鼓



基調講演を行う藻谷浩介さん



各地で活躍するIターン者をゲストに迎えたパネルディスカッション。右から藻谷さん、真砂田辺市長、辻野さん、山田さん、西塔さん

護摩壇山にはブナなどの広葉樹林が広がり、紅葉の名所としても知られている



喜べる里山を作っていかなければならない」。今回の講演で最も心に残った藻谷さんの言葉である。里山資本主義（里山再生）とは、お金ばかりを追い求めてきたがゆえに見逃した「身近な宝物」を改めて見つめなおす作業なのかもしれない。

ローカル志向宣言

基調講演の後は、「里山資本を生かしたイノベーション」をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。大和総研主席研究員の河口真理子さんを進行役に、福岡県上毛町地域おこし協力隊員の西塔大海さん、岐阜県飛騨地方で地域資源を活用したツーリズムを推進する株式会社美ら地球CEOの山田拓さん、田辺市

中辺路町近露で地元住民と共に地域おこしに取り組む辻野昭二さんのIターン者3人がそれぞれの体験談を交えながら、藻谷さん、真砂充敏田辺市長とともに、さまざまな意見を出し合った。東大大学院卒の西塔さん、多くのグローバル企業を渡り歩いてきた山田さん、単身上京し様々な会社を経営している辻野さん。そうそうたる経歴を持つパネリストは、一見すると、水源の里とは縁遠い人たちのようにも思われた。しかし、この人選が今回のパネルディスカッションの妙。若者のローカル志向を「内向的だ、覇気がない」とする大都会至上主義だった時代はもう古く、今や一度都会で成功を取めた若者世代が新たな価値や可能性を里山に見出し、自ら選んで移り住ん

でくる時代になってきていることを会場に印象づけるという意味で、大きな成果があったように感じた。田舎は、都会で行き詰った人間が帰ってくる場所ではない「田舎へ行って一旗揚げる」。そんな波が来ていることを予感させる議論となった。

『紀州備長炭』の故郷

島根県の湯の川温泉、群馬県の川中温泉とならび、「日本三美人の湯」として名高い「龍神温泉」を満喫した翌日は、田辺市内で現地視察が行われた。参加者は、田辺市を最も有名にしている世界遺産「熊野古道」を伏拝王子から熊野本宮大社まで歩くコースと、高野龍神国定公園や紀州備長炭記念公園を訪れる「地域

世界遺産 熊野古道

熊野古道とは、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）へと通じる参詣道の総称。古代から中世にかけて熊野三山の信仰が高まり、上皇や女院から武士・庶民にいたるまで、人の切れ目が無いほどおびただしい数の参拝者がこの道を訪れた。その様子を例えて「蟻の熊野詣」と呼ばれたそう。熊野古道には5つのルートがあり、特に「中辺路（なかへち）」というルートの大部分が田辺市にある。2000年には国の史跡に指定され、2004年には「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部としてユネスコの世界遺産（文化遺産における「遺跡および文化的景観」）に登録された。



道林禅門 ©田辺市熊野ツーリズムビューロー

龍神は〜と 特産品紹介

「地域の人の生きがいをつくり、若い女性が無理なく地元に残れる環境を作りたい」。そんな思いから生まれた地域おこしグループ「龍神は〜と」は、30〜70代の女性6人が集まり2002年に結成された。グループ名には「村を愛する女性が、畑から食卓まで「心」と「愛」を込めてお届けする」という意味が込められている。龍神村はもちろん、和歌山県熊野地方の特産素材を使い、昔ながらの保存食やからだ想いのおやつなど、様々な種類のこだわり産品を手掛ける。

所 和歌山県田辺市龍神村龍神 165
Tel 0739-79-8068
営 10:00〜17:00 休 木曜



左上/「柚べし」 龍神の柚子に、落花生などと合わせた麦味噌を詰め乾燥させた伝統食
上/「かりんとう日和」 国内産の米粉、小麦粉を使用。卵と乳製品は使わず、ユズやヨモギなど地元の食材で味付けした焼かりんとう
左/右から「柚子七味」「赤山椒七味」

林業コース」に分かれて視察する。世界遺産の素晴らしさは言うに及ばずというわけで、筆者は地域林業コースへと向かった。

美しく色づく紅葉を楽しみながら、高野龍神スカイライン（国道371号）を走ること約1時間で、龍神温泉街と高野山の間に位置する高野龍神国定公園に着く。高さ33mの展望塔・ごまさんスカイタワーは、平維盛が護摩木を焚いて平家の行く末を占ったという史実にちなみ、護摩木を積み上げた独得の形をなしている。「紀州の屋根」と呼ばれる護摩壇山からの眺望は素晴らしく、大台・大峰をはじめとする雄大な山並みの他、快晴だったこの日は遠くに紀伊水道の島々まで望むことが出来た。近くには和歌山県の最高峰となる「龍神岳」

（1,382m）もあり、山頂までの登山道も整備されているようだ。

売店には、龍神村の女性たちで構成される地域おこし団体「龍神は〜と」が手掛ける産品が数多く並び、梅やみかんなどの代表産物の他にも、柚子や里芋、椎茸、山椒などといった特産物があることを教えてもらった。それにしても、ここの商品はどれも田舎の産品らしからぬ洒落たパッケージが目を引く。聞けば、柚べしを包む「風呂敷」をイメージしたパッケージは、村にIターンした女性デザイナーとのコラボ作で、2008年「日本パッケージデザイン大賞」に入賞したのだそう。特産品開発にも女性グループならではのセンスが光る。

続いての訪問地は紀州備長炭記念公園。田辺市は、「備長炭」

発祥の地として、古くから炭焼きが盛んに行われてきた。「紀州備長炭発見館」では、「スミからスミまでスミ」というパンフレットの触れ込みどおり、備長炭や木炭の歴史や文化を始めとする炭の神秘がスミズミまで展示・解説されている。ちなみに「備長炭」という名前は、この地で焼かれていた白炭を「備中屋長左衛門」という人が備長炭と呼び、売り出したことに由来している。中でも、和歌山県産の備長炭を「紀州備長炭」と名付け、地域ブランドを確立。伝統と品質を維持しつつ、他の製品との差別化を図っている。

公園内の炭焼き窯では昔ながらの炭焼きを見学。「ウチも昔は炭焼きをしてたんや〜」という参加者から「在りし日を懐かしむ声」



展望台では田辺市職員が眼下に広がる紀伊山地の山並みについて解説してくれた



道の駅・田辺市 龍神ごまさんスカイタワー

所 和歌山県田辺市 龍神村龍神 1020-6
Tel 0739-79-0622
営 4月1日〜11月30日（無休）
9:30〜17:00
（土日祝9:00〜17:00）
展望塔入場料：300円（小学生以上）
<http://gomasanskytower.com>



備長炭でできた木琴演奏を体験

公園内には大きな炭焼き窯が5基ある



昔懐かしい炭焼きに視察団一行は興味津々

漆黒の輝きを放つ紀州備長炭製品



道の駅・紀州備長炭記念公園 紀州備長炭発見館

所 和歌山県田辺市秋津川 1491-1
Tel 0739-36-0226
営 9:00 ~ 17:00
休 水曜（祝祭日の際は翌日）、12/31 ~ 1/1
入場料：小・中・高校生 100円、一般 210円

が多く聞かれた。またここでは、全国から応募のあった製炭業（炭焼き職人）を志す人のための研修も行われており、最長で24か月間当地に滞在し、地元の木炭生産者組合の技術者から専門的な技術指導が受けられるそうだ。紀州備長炭を後世へ受け継ぐために、市をあげて職人の育成に力を注いでいる。そういえば、予定では今日あたり炭の窯出し作業が見られるかも……とのことだったが、タッチの差で昨日取り出したところだという。絶妙な炭の焼き加減は、たとえ遠路はるばる視察が来るとて待たないのだ。それでこそ良い製品が守られるのだなあと、妙に納得しつつ現地視察を終えた。

秋津野ガルテン

田辺市上秋津の会津川に近い上秋津小学校木造校舎を改造して2008年に開設された「秋津野ガルテン」。農家レストラン「みかん畑」では、地域で採れる新鮮な食材を使い、農村のお母さんたちが心を込めて作るバイキング料理が味わえる他、宿泊施設や農産物加工体験教室、都市と田舎の交流室なども整備され、田舎での農業体験が楽しめる。

所 和歌山県田辺市上秋津 4558-8
Tel 0739-35-1199
営業日時は各施設によって異なります



南紀みらい(株) 梅酒・梅干し専門店「紀州梅酒で乾杯。」

専門店の名の通り、南紀田辺周辺の特産品である「梅」を使った商品に特化した土産物店。田辺市が2013年12月に制定した梅酒や梅ジュースでの乾杯を推奨する「梅酒で乾杯条例」をPRするアンテナショップでもある。店内には、地元の梅酒約40種、梅干・梅加工品約20種類が揃い、ほぼ全品試飲・試食が可能。飲み、食べ比べて、お気に入りの梅製品を購入することができる。



所 和歌山県田辺市湊 993-3
Tel 0739-26-5225
営 13:00 ~ 18:00
休 火曜
https://www.facebook.com/KishuUmeshu

龍神村を盛り上げる個性豊かな移住者たち

龍神村では、25年ほど前から廃校舎をアトリエ付き住居に改装して、アーティストの移住を誘致してきた。2003年には地元産材を使ったモダンな住宅「アトリエ龍神の家」を建設し、いっそう活動に力を入れている。こうして龍神に集まった個性豊かな移住者と、地元の人々とのコラボレーションで、次々と新たな地域おこしの取り組みが生まれている。



プロチェンソーアーティスト 城所ケイジさん
2004年移住。国際大会で4年連続チャンピオンなど数々の受賞歴を持つチェンソーアート界の第一人者。2010年からは個展や大型彫刻を中心に活動しつつ、技術講習やカービングショーなどで全国を巡業している。
チェンソーアート・ジャパン Tel 0739-78-8105



躍動感あふれる城所さんの作品



龍神地釜とうふ工房 るあん 小澤聖さん
2001年移住。2006年春に開業した「るあん」で、龍神村伝来の薪を使った昔ながらの豆腐を作る。併設のカフェ（土日、5～11月営業）で出す「大豆コーヒー」や「とうふのプランマンジェ」などの手づくりスイーツも人気。
龍神地釜とうふ工房 るあん Tel 0739-79-0637



昔ながらの製法で作られる、るあんの豆腐

水源の里住民の生活実態をミエル化「イキイキ指数アンケート調査」

水源の里で「食」「つながり」「郷土愛」高い傾向

「田舎に暮らす高齢者は、80歳、90歳になってもイキイキしている……」。多くの人が漠然と持っているイメージをミエル化（数値化）し、自治体の施策や田舎のPRに活用しようと始まった「水源の里イキイキプロジェクト」*。このたび実施したイキイキ指数調査の結果をまとめ、プロジェクトの第一歩を踏み出しました。

* NPO法人ビーグッドカフェと協議会が連携し、地域活性化や水源の里への関心度アップを狙うプロジェクト。

調査方法

- 実施期間 平成26年7月～8月
- 方法 質問紙（全24問）による無記名回答
- 対象 全国水源の里連絡協議会に参画する46市町村が参加。各自治体が対象集落の30歳以上の住民を対象に実施。また、比較対象として都市部の3自治体でも調査を行った。
- 対象人数 水源の里：4,270人、都市部：495人

調査項目

- 1 体の健康（病院にかかる頻度等）
- 2 心の健康（積極性の程度等）
- 3 食の豊かさ（新鮮な食材を食べる頻度等）
- 4 社会とのつながり（隣近所との交流頻度等）
- 5 仕事・いきがい（地域での役割の程度等）
- 6 郷土への愛着（地域の行事への参加頻度等）

調査結果

「食の豊かさ」水源の里8割超

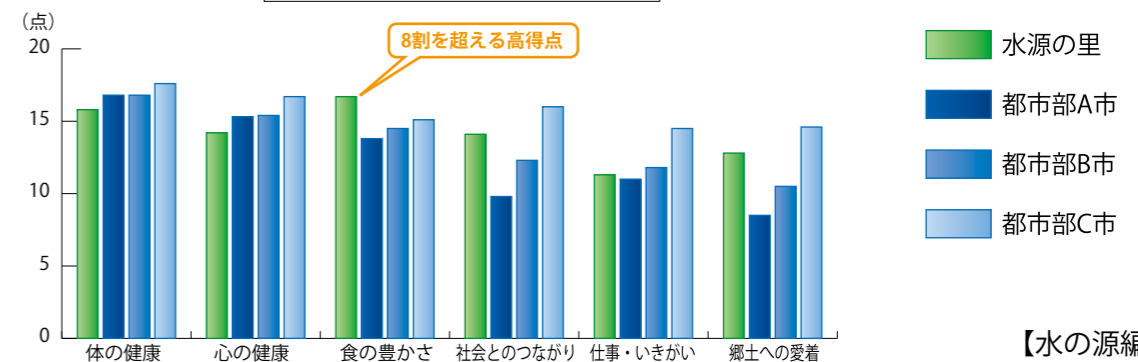
今回の調査で示されたイキイキ指数（120点満点）は、水源の里（46市町村平均）で84.8点、都市部（3市平均）で82.6点と両者に大きな差は見られなかった。しかし、項目ごと（20点満点）では、「食の豊かさ」で水源の里が16.7点と8割を超える高い数値を示した。また「社会とのつながり」「郷土への愛着」は、グループ毎の点数のばらつきが大きく、地域の特徴が現れる項目であることが分かった。

「社会とのつながり」「郷土への愛着」50～70代で高い

水源の里を年齢別に分析したところ、50～70代が前述の3項目で特に高い数値を示していた。調査を企画したNPO法人ビーグッドカフェは、「40代以降、体の健康は徐々に下降するが、水源の里には、社会とのつながりを保持し、身の回りのことをしっかりできる人が多いのでは」と分析している。

今回の調査は、水源の里の生活実態を把握することが目的。加えて、調査自治体数は少ないものの、都市部でも同調査実施し、比較分析を行った。調査に協力した46市町村へは順次、個別の分析結果がフィードバックされる。

イキイキ指数項目別平均値



【水の源編集部】

全国水源の里 フォトコンテスト

●審査委員長 いのうえ たかお 井上 隆雄 ●特別審査員 たぬま たけよし 田沼 武能 ●ゲスト審査員 わしだ きよかず 鷺田 清一



『秋祭り』撮影地:福島県南会津町 丹治美知夫さん(福島県福島市)

【選評】300年以上の歴史がある「古町まつり」の一場面。日本の農耕文化を象徴するような情景です。構成も良く考えられています。水は写っていませんが、たわわに実った稲穂が水の恵みを十分に表現しています。水源の里をアピールする素晴らしい作品です。

過去最多 523 点の応募

水源の里の生活や文化、四季折々の表情などを写真に収めていただく全国水源の里フォトコンテスト。今年、協議会参画市町村で平成23年8月以降に撮影された作品を募集し、過去最多となる523点の応募がありました。8月末に京都市で行われた厳正な審査の結果、グランプリ(1点)、各大臣賞(3点)、特選(10点)を決定。10月23日に和歌山県田辺市で開催された第8回全国水源の里シンポジウムで表彰式を行いました。

過去の入賞作品は協議会HPにてご覧いただけます。
<http://www.suigenosato.com/contest.htm>



総務大臣賞に輝いた小村政充さん(左)。賞状を手渡す総務省過疎対策室長の齋藤秀生さん(右)。和歌山県田辺市の龍神市民センターで



特選 『神田の代掻き』撮影地:愛媛県西予市 大高 久昌さん(愛媛県四国中央市)



特選 『清流の調べ』撮影地:福島県北塩原村 浅野 良さん(福島県福島市)



『水ごり』撮影地:岡山県真庭市 小村政充さん(岡山県津山市)

【選評】雪が降る清流に身を沈め、一心に手を合わせる姿が印象的です。水に関わる祭事・神事は全国各地で行われていますが、同じ場面でも作者の感性や感動が加わることにより、迫力ある作品に仕上がっています。



特選 『飛翔』撮影地:福島県猪苗代町 荒木 浩幸さん(福島県郡山市)



特選 『夏の思い出』撮影地:徳島県美馬市 小早川 とし子さん(滋賀県守山市)



『五月の輝き』
撮影地：兵庫県丹波市

芦田千賀子さん（京都府綾部市）

【選評】 一見地味に見えますが、心を揺さぶられる作品です。水田を写した作品は多くありますが、この作品は、初夏の緑のさわやかな雰囲気がうまく表現できています。



『惜秋の朝』 撮影地：滋賀県高島市
田中 延子さん（滋賀県大津市）



『釣り人』 撮影地：和歌山県田辺市
平山 弘さん（和歌山県田辺市）



『千年の営み』
撮影地：熊本県阿蘇市
村上 憲雄さん（熊本県阿蘇市）



『涼』 撮影地：福島県猪苗代町
菅野 勝人さん（福島県郡山市）



『清流に舞う』 撮影地：宮崎県延岡市
甲斐 直志さん（宮崎県延岡市）



『初夏の農村』 撮影地：京都府南丹市
浅野 三雄さん（京都府京丹波町）



『高原のミルクウェイ』
撮影地：愛媛県久万高原町 白石信夫さん（愛媛県宇和島市）
【選評】 実際は動いている星と地面を止めて写すためには、特殊な機材はもちろん、技術も必要です。さらに、これほどの満天の星空は、自然環境の良さも重要。バランスの妙を感じます。

総評

何を主体としたのか、何を撮ろうとしたのか。そういった作者の思いが見た人にも伝わるような写真を撮るのは、なかなか難しいもの。水が私たちの生活にどのように関与しているかなど、テーマについて良く考えることも大切です。やはり、水源の里を愛する心が素晴らしい写真を生むのです。来年もたくさんの応募をお待ちしております。



特別審査員 田沼 武能

地域を元気にする、水源の里の取り組みをレポート



縁側カフェで農村交流

900人の「源快集楽」で 100年後を見据えて

福島県 にしあいづまち 西会津町

【取材・文：永井晃】



みんなの声が響くまち にしあいづ

福島県の北西部に位置し、東は喜多方市、西は新潟県に隣接する県境の町。栃木県と福島県境に位置する荒海山を源流とし、新潟平野を経て日本海にそそぐ阿賀川が町内を貫流する。

昭和29年1町9村が合併し現在の西会津町に。面積は298km²、人口7,366人。高齢者比率は41.4% (H22 国勢調査) となっている。「みんなの声が響くまち にしあいづ」をスローガンに住民・議会・行政が一体となった「協働のまちづくり」に取り組んでいる。ミネラル野菜、味噌ラーメン、桐げた、張り子などが特産品。大山祇神社、鳥追観音如法寺、西会津雪国まつりなど、観光資源も豊富な町である。

ランプ生活に憧れて

福島県の北西部、新潟県に接する静かな山間の地。この奥に人家なし。森林と里山の境界線に縁側カフェ「キノコハウス」は、佇んでいた。

「こんにちは」。玄関にさがる暖簾をくぐって声をかけると「はい。待ってましたよ。あがって、あがって」。何とも飾らない声に迎えられる。まるで帰省したような感覚だ。

キノコハウスのオーナーである佐藤昭子さん(58歳)は、実は東京生まれの東京育ち。ここ西会津町は、夫・時男さんの生家だ。

小学生の頃に数年間、新潟の集落で半農半漁生活したことが、昭子さんの原風景となった。夏は海でアサリ採りをしたり、秋には森に入って果実を収穫したりして、自然

に囲まれて過ごした。そういう体験が昭子さんの心に深く刻まれた。

24歳で結婚のあいさつを兼ね、初めて当地を訪れる。夫となる時男さんから「電気もなくランプで生活しているようなところ」と脅された。しかし、好奇心旺盛で田舎大好きな昭子さんは「人間が宇宙に行く時代にランプで生活するなんて素敵」とわくわくしながら訪問した。実際は「玄関の戸を開けたらテレビがあって、冷蔵庫も揃っていて、ランプなんてもちろんなくてがっかりした」と笑顔で当時を振り返る。

それでも、山の懷に抱かれた風景には大満足。いつかはこの地で暮らしてみたい。昭子さんの心に新たな故郷が芽生えた瞬間だった。

キノコハウス誕生

転機は13年前に訪れた。当時、時男さんとともに、埼玉県の中学教師だった昭子さん。二人の娘が揃って福島の大学に進学し、夫の両親も高齢になり農業に限界が見え始めた。時は今。そう判断し、夫の実家に1ターンすることを決めた。夫はUターンである。

農業で生計を立てるため、何を作るか？ 悩みに悩んだ末、義父が細々と営んでいたシイタケ栽培にたどり着く。



遊休農地を開墾し、退職金の大半をつぎ込み、ハウスを建設。やるからには夫ともにこだわりを発揮し、飯豊連峰の伏流水をくみ上げるために101mもの井戸を掘り、1日3回のシャワーで土壌に潤いを与え続けた。愛情たっぷりに育ったシイタケを昭子さんが行商で売りさばく日々が続いた。その時から屋号は「キノコハウス」だ。

最初の3年は苦労の連続。収入は、行商で得た現金のみ。退職金を切り崩しながら試練

左/無農薬無添加にこだわり、飯豊連峰伏流水で育てたシイタケ

右/脱サラで挑戦したキノコのハウス栽培



の日々が続いた。しかし「苦労は買ってでもしろ」の言葉どおり、この時期に多くの事柄を学んだ。

第1が販路の確保。東北や北海道の百貨店やホテルに出品し、実績を積み上げていく。次はマーケティング。ホームページを作ったり、研修会に参加したりして経営者としてのスキルを高めていった。そして何よりも、顧客との間合い。販売の現場で消費者の声を聞いたことが、優秀なシイタケづくりの重要なヒントとなった。やがて、夫妻の栽培するシイタケは市場で高い評価を得るまでになる。

何故シイタケだったのですか？ の問いに「シイタケ栽培は農業の中では比較的軽作業。女性の私にもできると思ったの」。ここでも天真爛漫な昭子さんだった。

東日本大震災の衝撃

ミシュランガイドで二つ星に輝いた東京の料亭「醍醐」からの注文、椎茸野草茶や旬の果物を用いたジャムなどの加工品開発、キクラゲ栽培への挑戦などが奏効し、キノコハウスの売り上げは年商1,000万円を超え、組織も株式会社に。やっと将来が展望できるようになった矢先の3月11日。東日本大震災が発生する。福島原発から120km以上離れたキノコハウスにも、放射能の衝撃が駆け抜けた。

東京の料亭との取引や韓国ソウルのホテルとの商談、香港企業との契約など、すべては無に帰した。夫妻が栽培したシイタケからも550ベクレルもの放射線が検出された。原因は福島県外の菌床メーカーの汚染。訴訟に持ち



株式会社キノコハウス 代表取締役 佐藤昭子 (さとう・あきこ)

東京生まれ。美術科教師として23年勤めた公立中学校を早期退職。平成14年に夫の故郷福島県西会津町に1ターンした。米とキノコの生産・加工・販売の6次産業を展開。平成22年に法人化し「株式会社キノコハウス」の代表となる。

森林と里山の境にある縁側カフェからの眺め



「皆様のホッとする空間になりたい」という昭子さんの言葉通り、ゆったりとした時間が流れる



暖かな日差しに包まれる店内



小さな子どもにも安心して食べさせられるホットケーキ



旬にこだわるカフェのランチメニュー



カフェを飛び出し、のびのびと遊びまわる子どもたち

込んだが、出口と責任の所在が不透明な戦いに徒労感を募らせる。結果、2年余りに及んだ裁判闘争とともに、心血を注いだシイタケ栽培にも終止符を打つことになった。

「うちは家族全員B型なのよ。だから物事を深く考えないの」。昭子さんは言うが、そんなはずはない。どんな逆境にあってもあきらめない不屈の闘志があったからに他ならない。

自宅をカフェに改築

シイタケ栽培を断念した後、昭子さんは、商品の主軸を玄米に変更し、様々な商品開発への挑戦を始めた。

おかゆの缶詰、無添加の玄米パン、ポン菓子など。「安全で安心、生産者の顔が見られる食品づくり」は彼女の一貫した哲学だ。

さらに、自宅を改築し「縁側カフェ」なるものを出現させた。特徴は徹底的に旬にこだわること。カフェを始めた当初、出した料理にキュウリを盛ったのだが「こころへんでは5月がキュウリの旬ですか……」というお客さんの声に奮起。「よし、これからは旬のものしか出さない」。これは、哲学というより女の意地か。

何はともあれ、縁側カフェ

は現在、癒しや自然とのふれあいを求める人々で、連日大賑わいだ。

さりげなく置かれた「縁友ノート」を覗いてみると、遠くは横浜、名古屋、大阪など、都市部からのお客さまが大半を占めている。彼・彼女らは、異口同音に「昭子さんとの会話が楽しい」「大自然に触れ、迷いが吹っ切れました」「新鮮でおいしい料理、^{うんちく}蘆薈のあるお話しに大満足」そして決まって「また来ま〜す」の言葉で結ばれている。

「将来は、離れの小屋を改築して民宿にも取り組みたい」。多くの人が交流することのできる居心地の良い場所づくりに、昭子さんの夢は広がるばかりだ。

孫たちに楓1,000本

水源の里の理念は、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」だ。昭子さんの口からも同じ言葉が発せられた。「上流が消滅すれば、下流にも影響が出る。ここは水の源であるとともに、心地よさの源でもある。いろいろな楽しみが集まっているとこ



縁側カフェのお客さま



昭子さんや西会津の自然に会い、遠くは大阪から訪れる

縁側カフェ「キノコハウス」



所 福島県耶麻郡西会津町
奥川大字元島字上家ノ前 2216
Tel 0241-49-2011
営 11:00-17:00
休 不定休

西会津町は こんなまち

SL列車が走るまち

新潟駅から会津若松駅までの127kmを結ぶ磐越西線に、平成11年4月、SL列車が復活した。名付けて「SLばんえつ物語」号。4月から11月末までの土日を中心に1日1往復運行している。

機関車は、大きな車輪と細いボイラーが優雅に映ることから「貴婦人」という愛称で親しまれてきたC57だ。牽引車両は、展望室を備えた「オコジョ（子ども）車両」や大正ロマンの雰囲気再現したレトロ調のグリーン車両など7両。途中、西会津町の野沢駅や蔵とラーメンで有名な喜多方駅など10駅に停車する。石炭の香りと汽笛の声。片道4時間のSLの旅は、昭和が蘇えること請け合いだ。



なじやかな願いもききなさる

西暦778年に^{かんじょう}勸請されたといわれる歴史ある大山祇神社。祭神には^{おやまつのみこと}大山祇命（山岳丘陵の守護神）と^{いわたかひめのみこと}岩長比売命（長寿の守護神）、^{このはなさくやひめのみこと}木花咲那姫命（良縁と安産の守護神）の三神がまつられている。「なじやかな（どんな）願いもききなさる野沢の山の神様」として、人々の信仰はあついで、一生に一度の願い事があるときは、3年続けてお参りをすると叶えられるとの言い伝えも。

中でも、大山祇命は、水源、水利、金石の守り神。水源の里の再生にもききとご利益がいただけるに違いない。

五穀豊穰と家内安全を祈願して毎年6月に「大山まつり」が行われ、県内はもとより、山形県や新潟県から30万人もの善男善女でにぎわう。





甘辛くてホッとする、おばあちゃんの味

吉野鶏めしおにぎり

143円 (税抜・店頭価格)



おおいだ 大分県大分市

面積 501.2km²、人口 478,777人。南蛮貿易で栄え、医学や音楽などの西洋文化が開花。ムクノキヤクスノキなど豊かな自然林が残る「高崎山自然動物園」は、約1,300頭(国内最大)の群れを成す野生ニホンザルの生息地として有名。豊後水道の荒波で育ったぶぐや関さばなど、名産品も多数。



吉野鶏めし保存会
吉野食品有限会社

所 大分県大分市大字吉野原 278

Tel 097-595-0332

営 8:00 ~ 15:00

休 お盆、年末年始

http://www.torimesi.jp/index.html

から揚げ専門店が軒を連ね、鶏肉の年間消費量全国1位の常連でもある大分市。今回は、この地で古くから親しまれている、鶏肉を使った家庭料理「吉野鶏めしおにぎり」を紹介します。

「吉野鶏めし保存会」は26年前、地元婦人会が中心となって発足。保存会が伝承する確かな味は口コミで評判を呼び、県外から実演販売の依頼が舞い込むほど、広く知られるようになりました。全国11か所に直売所が作られ、2003年には法人化。最近では、インターネット販売も開始し、ますます全国にファンを増やしています。

鶏めしの具材は、こま切りの鶏肉とささがきゴ

ボウのみ。鶏皮の脂でじっくりと炒めてコクを引き出し、甘みと旨みが強い九州醤油や砂糖で甘辛く仕上げます。別炊きしたご飯に混ぜ込めば、ホッとのおばあちゃんの味の完成です。

レンジで温めるだけで手軽に食べられる冷凍おにぎりは、子どもへの仕送りやお取り寄せなどにも重宝されているとか。アツアツのうちに手握りした後、急速冷凍することで、鶏肉やゴボウ、醤油の旨みがお米に染みわたり、さらに美味しくなるとご家庭に届きます。お米は、もちもち食感が特徴の大分県産ひのひかりを使用。どこから食べても具材がたっぷり、食べ応えのある逸品です。

教えて！おすすめみやげ

大分市が橋渡し役となつて市内の生産者と企業をつなぎ、商品開発や販路拡大に取り組む「おおいだの幸」ブランド化支援事業で生まれました。

有限会社古山乳業
(来年で創業100周年)
Tel 097-575-0027
通販可(楽天市場)
取扱い店:道の駅さがのせきほか



イチジク のむヨーグルト

加糖プレーン(180ml) 210円
大分市いちじく(180ml) 220円

程よい酸味で、子どもから大人まで飲みやすいプレーン。濃厚でコクのある大分市産生乳の美味しさが実感できる。いちじく味は、大分県産果物を使った「おおいだフルーツめぐり」シリーズの一つ。食物繊維やカリウムなどが豊富で、女性に人気が高く、近年、市内での栽培量が増えているいちじくに着目し商品開発。いちじく特有の風味を活かした、甘酸っぱくさわやかな味わい。

NEW 水切りヨーグルト

プレーン(80g) 200円
大分市産いちじくソース入り(80g) 200円

通常のヨーグルトの1/3程になるまで水分を抜いた、クリームチーズのような新感覚ヨーグルト。乳酸菌やカルシウムなどの栄養素、ヨーグルトらしい酸味も残る。ほのかに杏仁の風味がするいちじく味は、そのままデザートにもなる華やかな味わい。プレーンは、サラダに加えたり、ジャムと合わせてクラッカーに載せたり、新しいヨーグルトの食べ方が楽しめる。



協議会だより

水源の里イキイキフォーラム開催

全国水源の里連絡協議会は、NPO法人ビーグッドカフェと共同で、昨年から「水源の里イキイキプロジェクト」を始動。10月30日に、東京都内においてフォーラムを開催しました。

フォーラムの前段に行われた記者発表では、今夏、協議会参画自治体の皆様にご協力をいただいた「イキイキ指数アンケート調査」の結果や今後のアクションプランについて説明。今回の調査結果について山崎会長は「郷土愛や地域とのかかわりなどの分野で、水源の里の優位



記者発表に出席するプロジェクト応援団長の藻谷浩介さん(左)、山崎会長(中)、NPO法人ビーグッドカフェ代表・シキタ純さん(右)



講師、参加者らが輪になって意見を交わした

性が明らかになった。結果は参画自治体に報告し、住民の生活実態を活性化策に活かしていく。さらに、今後、他の自治体にも働きかけてこれらの基礎データを活用していきたい」とコメントしました。

続いて行われたフォーラムでは、半農半X代表の塩見直紀さんが「それでも楽しいスローライフ」、じゃらんリサーチセンター研究員の三田愛さんが「一緒に地域変革する、地域コ・クリエーション研究」と題して講演。あらゆる角度から、地域の独自性や豊かさを田舎から発信し、日本を変えるヒントをもらいました。

後半は、講師を交えたワークショップスタイルで意見交換。参加者一人ひとりが設定した「地域活性化」のテーマに基づき、グループで熱心な討論が繰り広げられました。

読者プレゼント



吉野鶏めしおにぎり
(冷凍・15個入) 1名様

●アンケート

- Q1.面白かった・関心を持った記事
- Q2.今後取り上げてほしい内容
- Q3.水源の里への思いや本誌に関するご意見・ご感想

●プレゼント応募方法

はがきにアンケートの回答と住所、氏名、電話番号、性別を明記の上、下記宛先『水の源27号』読者プレゼント係までご応募ください。

【平成27年2月20日(金)消印有効】

※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

※ご応募いただいた皆様の個人情報は、賞品発送以外の目的では使用しません。

編集後記

■ インタビュー/町井

綾小路きみまろさんの綾部公演を見て驚きました。800人収容の大会場に補助席を入れて1,000人の超満員。人気のほどがうかがわれました。インタビューのときの物腰は、舞台での毒舌とは打って変わって折り目正しい受け応え。芸能人にありがちな術い(てい)が全くない。多くの中高年の女性を引き付ける魅力の秘密は、こんなところにあるのかなと感じました。

■ ウォークルポ/永井

消滅可能性自治体を名指した増田レポートの衝撃が全国を駆け抜けた。896の自治体が消滅する可能性があるというもの。政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、地域創生に腰を上げた。我が国の高度経済成長を支えたのは、地方の人材であったのは明白。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」。地方創生のキーワードはそこにある。

本誌に関する
お問い合わせ、
ご連絡先は

▲全国水源の里連絡協議会 水の源編集委員会

綾部市役所 定住交流部 水源の里・地域振興課 〒623-8501 京都府綾部市若竹町8番地の1
TEL: 0773-42-3280 (代表) FAX: 0773-54-0096 E-mail: suigen@city.ayabe.lg.jp
http://www.suigenosato.com/index.htm

定期購読のお知らせ

『水の源』が年4回お手元に届きます。年間購読料:1,000円(送料込)
お申し込みは、上記の電話、ファクス、メール、HPから

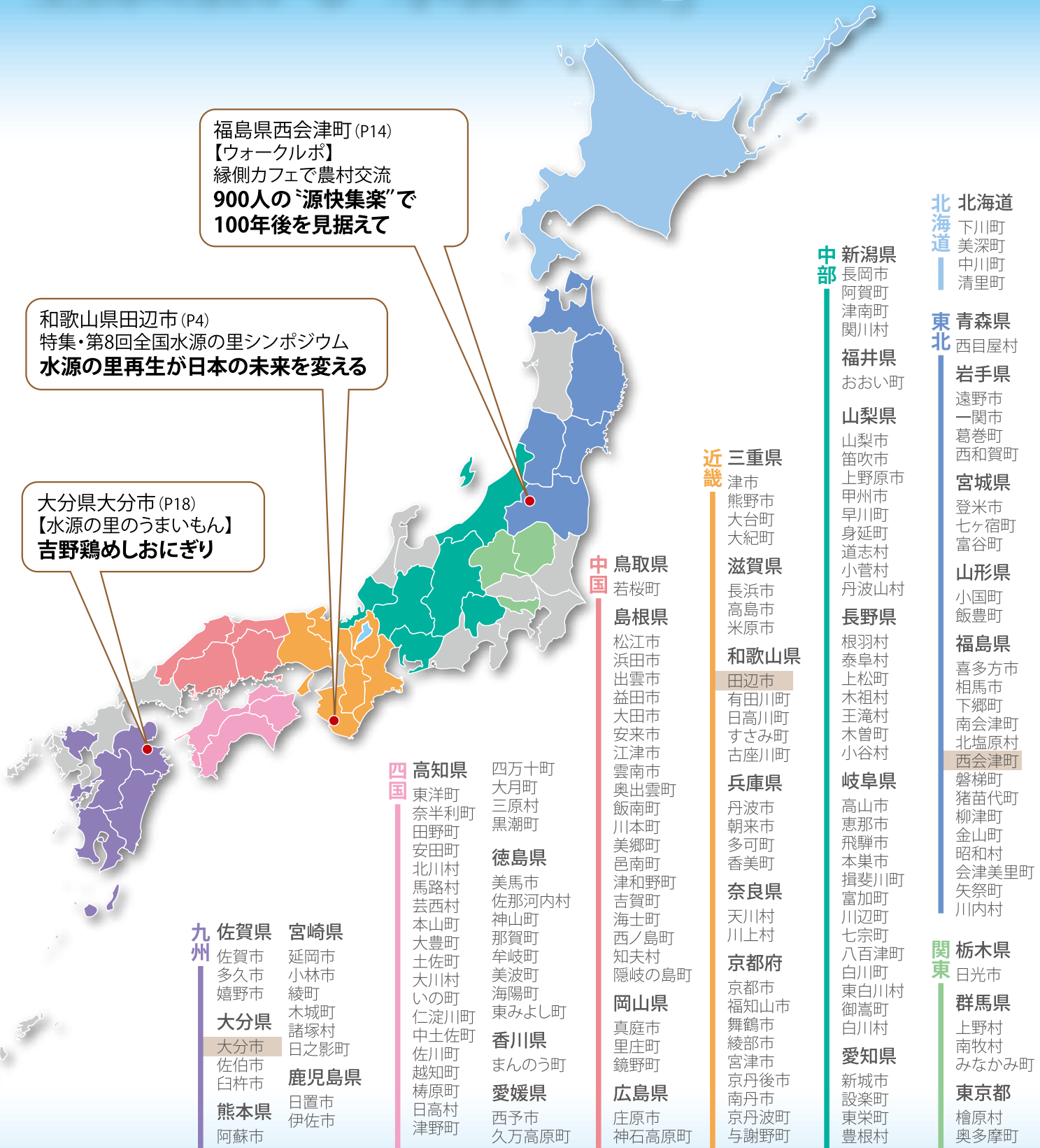
上流は下流を思い、下流は上流に感謝する

全国に広がる「水源の里」

福島県西会津町 (P14)
【ウォークルポ】
縁側カフェで農村交流
900人の“源快集楽”で
100年後を見据えて

和歌山県田辺市 (P4)
特集・第8回全国水源の里シンポジウム
水源の里再生が日本の未来を変える

大分県大分市 (P18)
【水源の里のうまいもん】
吉野鶏めしおにぎり



北海道
下川町
美深町
中川町
清里町

青森県
西目屋村

岩手県
遠野市
一関市
葛巻町
西和賀町

宮城県
登米市
七ヶ宿町
富谷町

山形県
小国町
飯豊町

福島県
喜多方市
相馬市
下郷町
南会津町
北塩原村
西会津町

磐梯町
猪苗代町
柳津町
金山町
昭和村
会津美里町
矢祭町
川内村

栃木県
日光市

群馬県
上野村
南牧村
みなかみ町

東京都
檜原村
奥多摩町

新潟県
長岡市
阿賀町
津南町
関川村

福井県
おおい町

山梨県
山梨市
笛吹市
上野原市
甲州市
早川町
身延町
道志村
小菅村
丹波山村

長野県
根羽村
泰阜村
上松町
木祖村
王滝村
木曾町
小谷村

岐阜県
高山市
恵那市
飛騨市
本巣市
揖斐川町
富加町
川辺町
七宗町
八百津町
白川町
東白川村
御嵩町
白川村

愛知県
新城市
設楽町
東栄町
豊根村

三重県
津市
熊野市
大台町
大紀町

滋賀県
長浜市
高島市
米原市

和歌山県
田辺市
有田川町
日高川町
すさみ町
古座川町

兵庫県
丹波市
朝来市
多可町
香美町

奈良県
天川村
川上村

京都府
京都市
福知山市
舞鶴市
綾部市
宮津市
京丹後市
南丹市
京丹波町
与謝野町

鳥取県
若桜町

島根県
松江市
浜田市
出雲市
益田市
大田市
安来市
江津市
雲南市
奥出雲町
飯南町
川本町
美郷町
邑南町
津和野町
吉賀町
海士町
西ノ島町
知夫村
隠岐の島町

岡山県
真庭市
里庄町
鏡野町

広島県
庄原市
神石高原町

高知県
四万十町
大月町
三原村
黒潮町

徳島県
美馬市
佐那河内村
神山町
那賀町
牟岐町
美波町
海陽町
東みよし町

香川県
まんのう町

愛媛県
西予市
久万高原町

佐賀県
佐賀市
多久市
嬉野市

宮崎県
延岡市
小林市
綾町
木城町
諸塚村
日之影町

大分県
大分市
佐伯市
白杵市

熊本県
阿蘇市

水の源 第27号

企画・発行：▲全国水源の里連絡協議会
発行日：平成26年12月
編集：「水の源」編集委員会

私たちは水源の里を応援します!!

全国環境整備事業協同組合連合会
一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
全国森林組合連合会
一般社団法人 全国清涼飲料工業会

全国農業協同組合連合会
電気事業連合会
独立行政法人 水資源機構
公益社団法人 大分県薬剤師会